あすなろ通信　44号

編集　ＮＰＯ法人みよし子育て・学び支援あすなろ
事務局　〒728-0006　三次市畠敷町 36 番地 7
（TEL　0824-55-6301　FAX　0824-55-6302）
発行日　2021年5月14日

今月のことば

今を変えなければ、
未来は変わらない。

五郎丸　歩
（元　ラグビー日本代表）

年度初めのご挨拶

あすなろ塾　塾頭　影山　克典

【はじめに】

二〇二一年度がスタートしました。今年度は「あすなろ塾」設立一一年目の年です。私が塾頭に就任して六年目となります。これまでのスタッフのみなさんも様々なご苦労があったと考えますが、私がこの塾に来てからもたくさんの課題に直面しました。何もなかったという年は一年たりとてありません。

「経済格差を教育格差にしない」という目標を掲げ、営利を目的としない特定非営利活動法人という性格上、生徒への取り組みもその年ごとの一人ひとりに対応するものでなくてはなりません。経営(運営)にしても利益を出さないギリギリの運営をしていますから、安定したものとなり得ないことは当然のことと言えます。ですから、一年一年を大切に、できることを精一杯やっていくことが「あすなろ塾」のスタッフの役割だと考えています。

【二〇二〇年度のこと】

昨年度もまた、いろいろなことがありました。コロナ禍による塾の休講（四月一四日～五月一九日）とそれをカバーする補習や勉強会の実施。保護者の経済的打撃に対する授業料の全員半額免除措置(前期のみ)。三次市からの次年度以降の助成金の終了連絡に対する取り組み等。いろいろなことがありました。私たちとしては、周りの人たちに支えられながらも、塾として体力の限り取り組んできたつもりです。

このような中、生徒はよく頑張ったと思います。特に三年生は補習授業にも、自らが主体となって設定する勉強会にも積極的に取り組みました。これだけ勉強を嫌がらない生徒たちは初めてです。結果、休講期間があったにもかかわらず、塾全体としての開講日数も授業時間数も昨年度を上回るものとなりました。そして生徒は徐々に学力(偏差値)を高め、希望の進路を実現することができました。

【二〇二一年度がスタート】

今年度のスタートは一年生一人、二年生三人、三年生二人の計六人のスタートとなりました。「あすなろ塾」では例年、三年生の人数が多い傾向にあります。それは三年からの新規の入塾生が多いからです。これは受験を目前に控え、彼ら(保護者)の勉強に対するモチベーションが高まり、そして塾に入ってくるという現象だと考えられます。

ところが今年度は違っています。新二年生が多いのです。別な言い方をすれば新三年生が少ないということでもあります。また、あすなろ塾の授業料減免制度は充実していると自負していますが、この対象生徒の割合が減っているのです。

この現象は、「あすなろ塾」の学力保障の取り組みが一定の評価を得ているということもあると考えられます。しかし一方では、「経済格差を教育格差にしない」を目標とする塾のニーズがなくなっているとは考えられませんので、減免対象の生徒や保護者の動きが遅れていると考えられます。ここにも家庭の教育力の格差が垣間見えます。それは同時に、塾の認知度の低さでもあります。ここは私たちの責任です。もちろんこれから夏に向けて三年生も増えると考えられますが、入塾の遅れは取り組みの遅れとなり、結果生徒が苦労することになりますので、この認知度の向上は私たちの重要な課題と言えます。

ともあれ今年度も態勢は整いました。英数コースと理社コースの二本立ての構成を維持できましたし、各教科の専門スタッフの確保もできました。また、運営資金の確保についても、本年だけは例年並みのものが確保できそうです。あとは学力保障・進路保障をどのようにしていくかということになります。

【おわりに】

今後とも「経済格差を教育格差にしない」という看板を降ろすつもりはありません。様々な学力の生徒たちに対する「あすなろ塾」の取り組みは、学力の低い生徒はもちろん、高い生徒の学力も伸ばすことの証明をし続ける決意でいます。

スタッフ一同今年度も精一杯頑張る覚悟でいます。この決意を述べることで、皆様方のご支援・ご協力に感謝しつつ、年度初めのご挨拶とさせていただきます。(四月六日　記)

あすなろ講師陣による勉強のコツ

勉強は勉強しなければ絶対に出来るようにはなりません。昔から予習・復習の大切さが言われ続けたのは当然のことです。

しかし、同じ努力をするにしても、効率の良い努力の仕方というものがあります。ただただ勉強量を増やしてもどんどんできるようになるとは言えません。

もし頑張ろうという気持ちを持っているなら、「勉強のコツ」を踏まえた、自分にあった勉強法を身に付けることが大切です。

生徒それぞれが学力を高めていくためには、さまざまな要素、条件が必要だと考えます。様々ありますが、その中でも代表的なものに次の三つが挙げられます。

○勉強をすることの目的（大それたものである必要はありません）
○自分なりの勉強法の確立
○勉強をやり続けることの充実感

これらの中の「自分なりの勉強法の確立」をめざすとき、今から紹介する「勉強のコツ」はどうしても意識しておかなければいけないことだと考えます。

あすなろ講師陣による「勉強のコツ」を通信に掲載したのは四年前になります。今号から加筆、訂正を加えながら再掲します。ぜ参考にしてください。

今号では英語の「勉強のコツ」を紹介します。

英語の勉強のコツ

英語も日本語と同じく言語の一つだから、私たちが日本語を身につけた手順を踏めば、必ず習得できます。つまり、赤ん坊が、母親の呼びかけや家族の話しかけを耳から入力し、状況と合わせてその言葉が意味する内容を把握し、それをまねして再生産していく、これが言語習得の最も基本となる過程と言えます。

ただし、この方法は確実ですが、時間がかかります。だから、既に母国語を習得し、ある程度分析力と応用力が身についた中学生が英語を学習するには、発音のルール、英文の構造（文法）を合わせて学習すると短期間で学習効果を上げることができると考えられています。だから、学校では文法を教え、読みを重視するのです。

中学校から英語を学習する方法としては、次の二つのことが同時に必要です。

○語彙力を増やす
○英語特有の語順になれる

語彙を増やすことは表現を豊かにすることにも繋がります。単語を覚えるためには、単語帳に、声に出しながら書いて覚えると効率が上がります。（スペルを覚えるための手段としては、自分なりの読み方でもかまわない）

語彙力を増やすことの重要性について、昨年度は改めて確認できることがあったので、紹介します。昨年の八人の三年生は、教科書に出てくる英単語や重要表現を含む単語テストを塾で毎時間繰り返した結果、学校の英語の成績が飛躍的に伸びました。例年同様の単語テストは実施してきたのですが、昨年のこの八人は、競争して、楽しみながら単語テストに取り組み、定期試験前には全員がほぼ満点が取れるほどに頑張りました。結果がすぐに定期試験に反映したこともあって、ますます単語テストに熱心に取り組むようになるという好循環が飛躍的な得点の伸長につながったと考えられます。他の教科の勉強にも前向きになり、その結果、全員が希望する高校に合格しました。

英語学習を困難だと感じる最大の理由の一つは、英語の語順が日本語のそれと異なっていることにあります。

まず例を見てみましょう。

例『健二は昨日公園で野球をしました。』

日本語では語順によって意味が変わることはありません。次のように言っても「健二」が主語であることに変わりはありません。

『昨日、公園で野球を健二はしました。』

つまり日本語では、文の構成は、多くは「助詞」の助けを借りて表されているのです。ある言葉が主語であることは「～が」「～は」という助詞で判断されるのです。

これに対して英語は、語順で文の構成が表されます。次の例文を見てください。

Kenji played baseball in the park yesterday.

英語では主語は必ず動詞の前に置かれます。言い換えれば、文の先頭に主語が来て、その次に動詞が来ます。動詞の後には目的語（日本語で「～を」と表される）が続き、場所や時間はその後ろに置かれるという大原則を身につけなければなりません。日本語の例文で見たように、「健二は」は文中のどの位置にあっても主語であることに変わりは無いのですが、英語ではそうはいきません。主語は、文の書き出しに置かれなければなりません。

英文を書くときには、常に「主語」は何か、「動詞」は何か、「時制（現在・過去・未来のどれか）」を意識しながら書き進めて行きます。

そして、英語が苦手だという人が、模擬試験や本番の入試で敬遠したくなる長文問題ですが、長文を読むときは、前から順番に「誰が」「どうした」「何を」と理解して読むことを心がけましょう。決して逃げる必要はありません。資料として、図や表、グラフが示されているときは、それらが伝えようとしている内容をまず理解してから英文を読めば理解が進みます。

最後にもう一度、語彙力を増やすことの大切さを強調しておきます。楽しく努力を続けることが必ず実力アップにつながります。

がんばろう。

総会報告

去る五月九日（日）に「特定非営利活動法人みよし子育て・学び支援あすなろ」の総会が開催されました。

正会員一三人のうち、委任状提出三人、欠席一人で定款に定める定足数を満たして総会が成立しました。

松本信司理事長のあいさつの後、議長に守本秀樹、議事録署名委員に影山克典、三橋豊の三人を選出し、議事に入りました。

議案は次のとおりです。

一号議案　二〇二〇年度活動報告
二号議案　二〇二〇年度会計報告、監査報告
三号議案　二〇二一年度事業計画
四号議案　二〇二一年度予算
五号議案　役員改選

一号議案では別冊の事業報告を資料に一年間のあすなろの活動が報告されました。

事業の成果として、次の二点が報告され出席者全員の拍手で承認されました。

（一）高校進学を希望する卒塾生八名が高校に合格した。

（二）コロナ禍による家庭の収入源を考慮し、前期のみではあるが全員の授業料半額免除に取り組んだ。

以下、各議案も全員の拍手によって承認されました。

三号議案の二〇二一年度事業計画に関わって、生徒募集の方法について活発な意見の交換が交わされました。新聞折り込みの生徒募集チラシが果たしてあすなろを必要としている子どもや保護者に届いているのかの検証をすべきだ、新しい募集方法を検討すべきではないかなどの意見を受けて、夏休み前の入塾状況を見ながら更なる入塾生増の努力をすることが確認されました。

五号議案の役員改選ですが、来年度が役員改選の時期になるので二〇二一年度の役員が引き続き役員を継続することが説明され、承認を得ました。

「三次市学びの支援活動推進事業補助金」について、二〇二〇年度当初に事業の打ち切りの通告を受けました。市教育委員会との話し合いを設定し、周りの方々のご支援もいただく中で、二〇二一年度は補助金が受けられることとなりました。今後も助成が継続されるよう三次市に要請すること、もし補助金が打ち切られたときの運営について検討していくこともあわせて確認し、約一時間の総会を終了しました。

ご支援していただいている企業・団体

・ミヨシ電子株式会社（三次市東酒屋町）
・㈱三次衛生工業社（三次市四拾貫町）

ご支援にしていただいた皆様

・加笠一宇（三次市十日市南）
・木倉敬之（東京都東久留米市）
・瀬川順子（三次市三良坂町）
・半田孝江（三次市三良坂町）
・笹田富子（福山市水呑町町）
・匿名（三次市三良坂町）
・匿名（三次市十日市南）
・匿名（三次市南畑敷町）
・匿名（庄原市）
・匿名（三次市高杉町）
・匿名（三次市粟屋町）
・匿名（三次市十日市東）
・匿名（庄原市高町）

2021年度　塾　生　募　集　　あすなろ中学部

〇少人数＆個別指導で学べます。
〇コースは２種類。
　◇英数コース（週2回）
　　月１４、０００円
　◇理社コース（週１回）
　　月　６、０００円
〇授業料減免措置があります。
　◇ひとり親家庭は半額免除
　◇生活保護家庭は英数コース　月2、０００円、理社コース　月1、０００円
〇あすなろ塾は授業料以外の経費（テキスト、模擬試験、夏季講座等）は徴収いたしません。

入塾受付
期間　随時（ただし火、水、金曜日）
時間　１６：３０～１８：００
場所　あすなろ塾
〇電話でも受け付けます。
　℡　０８２４－５５－６３０１
試験教科　英語、数学

子どもたちが育む文化の背景にあるもの

影山　克典

私が高校の教員になったのは一九七六年。それから四〇年間高校現場で働き、この「あすなろ塾」に来て五年が経過した。この間、様々な高校生の姿、中学生の姿を見てきた。その中で私が不思議に思ったこと、気になったこと、気づいたことなどの一端を、今回は書いてみたいと思う。私の雑ぱくな気づきと分析だから、相当独りよがりな解釈もあろうかと思うが、気づきがあれば温かい（？）ご意見とご批判をお願いする。

〈誕生日は大切？〉

これは高校現場にいたときに感じたことだが、生徒は誕生日をとても大切にする。特に女子にその傾向を強く感じるが、この誕生日を巡ってはいじめさえも引き起こされるほどだ。

友だちの誕生日が明日だという時、夜の０時を過ぎた瞬間に「おめでとうメール」を送る。送られた方はこの数に一喜一憂する。当日学校に行ってから「おめでとう」と言おうものなら、「今ごろ？！」という反応に会うこともある。

私が中高生の頃、これほど誕生日を大切にしていただろうか。自分がこの世に生まれた、他人と違う自分固有の大切な日に違いないが、私自身はあまり意識した記憶がない。

〈観に来られて恥ずかしくない？〉

塾に来て六年目を迎えている。塾という場は「学習」を挟んで生徒とかかわる場だ。すなわち勉強という側面からしか生徒に接することができない。

生徒の本当の姿は様々な側面から構成されている。「真実は事実の多面体」と言われるように、様々な側面から生徒の姿を見ていかないと真の姿には迫れない。私は、その姿に少しでも迫ることで学習面の指導も深めることができると考えている。

だから、生徒の勉強以外の場面での姿、たとえば部活の試合やコンサートを観に行く。ただし、生徒が嫌がるといけないので、観に行くときは事前に了解を取ることにしている。

ところが、拒否されたことがない。むしろ喜ばれる。しかも、本人のうまい下手には関係ない。

私の時代は恥ずかしくて嫌だった。しかし今は違うようだ。そこには恥ずかしさを越える何かがあるようだ。

〈引退試合の日に〉

私は高校の教員をやっている間、ほとんど部活の顧問、監督をしてきた。どちらかと言えば熱心にやってきたと自負している。

だから、三年生のこれが最後の試合という引退試合に立ち会うことも多かった。試合が終了したあと、顧問・監督としての最後のまとめをする。このチームの三年間のまとめをするのだが、いつの頃からかチーム全体のまとめだけではなく、それに加えて三年生一人ひとりについてのまとめも求められるようになった。かつてはチーム全体のまとめがあれば、それを聞いて一人ひとりが自分を振り返っていたと思う。しかし今は他人からの一人ひとりのまとめが必要のようだ。選手一人ひとりのうまいとか下手とかの評価ではなく、一人の選手として注目されてきた事実こそを求めているかのようだ。

〈大ヒット「世界に一つだけの花」〉

二〇〇二年に発表された「世界に一つだけの花」（スマップ）は空前の大ヒットとなった。この歌の主題は「ナンバーワンではなくオンリーワンが大切」というものだと解釈するが、なぜこのような大ヒットになったのか。

社会や学校の価値観からいえば「ナンバーワン」こそが求められてきたが、人々にはそれに対する不満や反発が少なからず蓄積されているのだと考える。多くの人々は「ナンバーワン」にはなれない。しかし自分の中に誇りや存在感を持ちたいと願っている。それが人間だと思う。

だからこそ子どもたち（生徒たち）は、偏差値や学歴で人間の評価をするのではなく、もっと別な形で友だちをそして自分自身を評価し、認める文化を生み出しているのではなかろうか。一人ひとり固有の、能力とは関係ない、誕生日を大切にし、他人から注目されることも、自分の存在証明として求めているのではなかろうか。

〈最高のほめ言葉は・・・〉

これも教員時代の女子クラブの話である。引退していく三年生に一、二年生が最後の言葉を贈る。いろいろな内容はあるが、彼女たちは最後に言う。

「先輩大好きです！」と。数値ではなく、能力でもない、とにかく「好きです」。これはうまい。生徒にしか育むことができない新しい文化の一つと言える。

NPO法人あすなろ・賛助会員募集

賛助会員：ボランティア活動は出来ないが、寄付金等でご協力できる企業や個人
個人年会費：1口（5，000円）以上
企業等年会費：1口（10，000円）以上
特典：あすなろ通信送付（年3回発行）
問合せ：あすなろ通信の発行住所と同じ（TEL・FAXとも）